

特許紹介

第23卷第7號 昭和12年7月

混合セメント製造法

(特許第119864號 發明者 小室成五郎, 眞田義彰)
(特許権者 豊城セメント株式会社)

此の發明は、豫め高温度に焼成して分解作用を起さしめた粘土を他の原料に調合し焼成して得たセメントクリンカーに前述の焼成粘土の適量を混合粉碎して混合セメントを製造する方法であつて、強度大にして性質優秀なるものを目的としたものである。

耐水コンクリート管

(特許第10926號 發明者 鈴木徳吉, 市川良正)
(特許権者 日本建築工業株式会社)

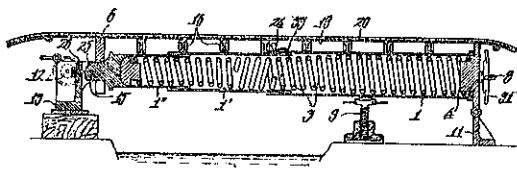
此の發明は、硬化後強度の低下を來すことなく、長期に亙り防水性を保持し得る耐水コンクリート管の考案に係るもので、膠の水溶液に亜麻仁油を加へた溶液に溶解アスファルトを混和した母液を適當に水で薄めてコンクリートと混合し、アスファルト粒子を組質内に均等に分布させ、全体に防水皮膜を形成せしめるのである。

架外自在なる架橋装置

(特許第119015號 特許権者(發明者) 松山勇夫)

此の發明は、架橋並に架外しが簡單で、且つ運搬に便利な架橋装置の考案であつて、即ち図-1に見る如く、内部に順次小径のものを收容した鋼管群(1, 1', 1'')の内部にスプリング(3)を收納し、スプリングの弾力に依つて鋼管群の内部のものを對岸に向つて射出伸展するやうにしたものである。

図-1.



直流を利用する電氣的地質調査方法

(特許第119927號 發明者 コラツド, シュルンペルゲル)
(特許権者(發明者) コラツド, シュルンペルゲル)

地中に掘鑿孔を穿ち、適當数の絶縁導線から成る電纜の先端に電極を取付けて掘鑿孔内に垂下し、掘鑿孔内に露出し居る種々の地層の電氣固有抵抗を測定すれば、是等地層の位置厚さ、又は性質を電氣的に測知し得る。例へば4條の絶縁導線から成る電纜の先端に各導線に接続せる4個の電極を取付けて掘鑿孔内に垂下し、掘鑿孔内に滿した泥水を通じて地層と接觸させる。此の際2

個の電極(A)(B)を給電々極として使用し、其の一方を通じて地上に置いた電源から強さ(i)なる電流を地中に送り他方の電極に復歸させる。地中を通ずる電流は地層の電氣固有抵抗と相俟つて電位差を生ず。残りの2個の電極を測定電極として使用し、地表の電位差に基き是等測定電極間に生ずる電位差(E)を測定す。然る時は電極附近の地層の電氣固有抵抗

$$\rho = \kappa E/i, \kappa = 4\pi \left/ \frac{1}{AM} - \frac{1}{AN} - \frac{1}{BM} + \frac{1}{BN} \right.$$

茲に(AM)(AN)(BM)

(BN)は給電々極と測定電極との間の距離である。實驗に依るに、給電電極を通じて地中に電極を送らない場合にも測定電極間には自然に發生せられる或値の電位差(e)が存在する。従て

ρ の計算にはこの電位差eの影響を除去しなければならぬ。若しeをしてEに對し無視し得る程度になし得るならば交流を利用し

て装置を複雑化する用なく直流の儘で測定し得る。この爲に本發明は給電々極(A)及(B)を通じて地中に強大な直流を送つて電流の強さiを増大させ、且つ

$\frac{1}{AM} - \frac{1}{AN} - \frac{1}{BM} + \frac{1}{BN}$ を増大するやう、距離(AM)

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

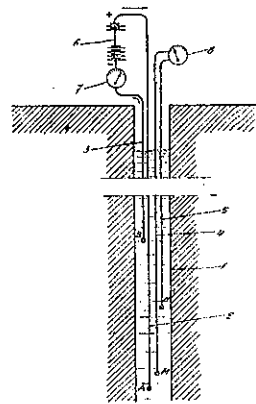
を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

を短くし、(AN)(BM)及(BN)を長くするものである。

図-2.



汚水酸化装置

(特許第119752號 特許権者(發明者) 園義孝)

此の發明は、汚水を曝氣酸化させる爲の壓型遠心ポンプの羽根車(1)と送氣用ファン(2)とを重設し、共に同一の駆軸(5)に固定し一体に回転するやうにし、ポンプ羽根車(1)の出口(4)を少くし上向きに形成して出口から周圍一様に斜め上向きに吐出する汚れに對しファン(2)の羽根車(2)の出口(5)から周圍へ略水平に流出する空氣を均等に作用するやうにし、且つ駆軸(3)の軸承(6)等を支持する構體(7)には兩羽根車(1)(2)の出口(4)(5)の上部及外周部を覆ふやうに環狀をした下向斜沫分散用彎曲庇(8)を固定し、其の庇(8)

内に於て汚水の逆流に流出空気が作用するやうにしたもので、ファンとポンプの羽根車を同軸的に重設する事に依り周囲方向へ流出する汚水に圧送空気を作用させ底内に於て汚水を分散し、汚水と空気との接觸を十分に

図-3.

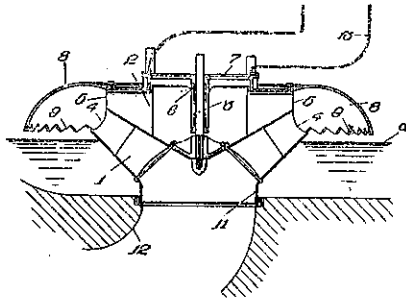
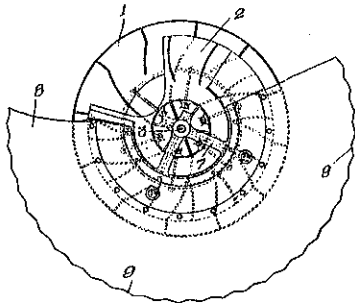


図-4.



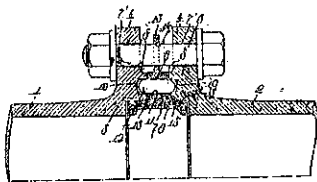
し酸化作用の促進と汚水の飛散防止に役立たしめたものである (図-3, 図-4)。

可撓性水密管接手

(特許第 120079 號 特許審判官 (發明者) 平谷純二)

此の發明は管接手に於て可撓性充填環 (9) が機能を喪失する程度に圧縮せられるのを防止し、水密性を保持しつゝ管連結部に於て相當の可撓性を發揮し得るやう考案したものであつて、即ち連結せらるべき管の連結部に跨つて設けた凹陷溝 (3) に設けた充填環 (9) の環狀部 (8) に取着けた制限杆 (12) の突出部は突鋸 (4) (4) の挾持壁 (5) (5) の凹陷孔 (10) に收め、前記環狀部が過度に圧縮せられる以前に凹陷孔底部に制限杆が衝突

図-5.



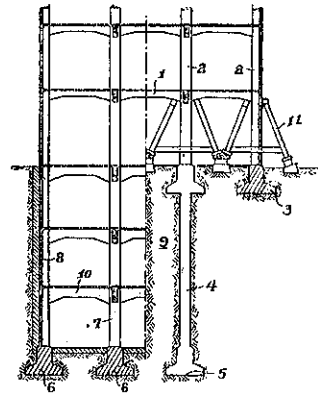
するやうにその長さを定めたものである (図-5)。

既設建築物の地下階増築方法

(特許第 120140 號 特許審判官 (發明者) 木田保造)

此の發明は、既設建築物 (1) の支柱 (2) の礎石 (3) を除き (建築物の強度に悪影響を及ぼさざる程度に於て) 支柱の負荷を假支柱 (11) で支へ支柱下へ所要の堅坑 (4) を穿ち、其の底面に基礎 (6) を施し、之より支柱 (7) を樹立して上方の支柱 (2) と接続緊結し、斯くして建築物の荷重を順次新規の基礎に傳達した後、建築物下方の土砂掘鑿を行ひ、外圍に土留壁 (8) を施し、掘鑿の進行と共に床梁 (10) にて支柱と支柱とを繋ぎ、之を地下階の構格としながら順次下層に及ぼして行く地下階の増築方法である (図-6)。

図-6.



鑄鉄管の可撓接手

(特許第 120181 號 特許審判官 (發明者) 久保田謙四郎)

金屬パッキングを使用する普通の管接手は耐震的でなく、ゴムパッキングを使用するものは、ゴムが其の性質上後年老化して固有の弾性を失ふ憂あり且つガス酸類に會つて変質する缺點がある。此の發明は之等の缺點を除去する爲に考案したもので、兩縁に取附部 (2) (6) を有し、夫等の取附部の間を波形とした軟金屬製環狀パッキング (1) を鑄鉄管の挿口及承口間の空所に挿入し、其の兩縁を夫々挿口外周及承口内周に緊締するのである。(図-7, 図

図-7.

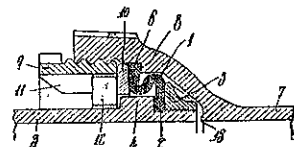


図-8.

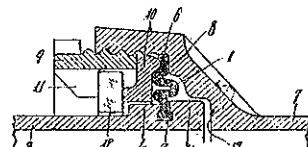
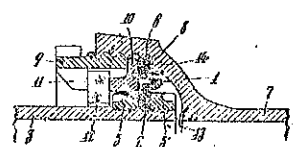


図-9.



-8, 図-9)。パッキング用金属としては鉛又は其の合金アルミニウム又は其の合金等、其の輸送物の物質に従って種々選擇使用するものである。

地下構築物沈下方法

(特許第 120266 號 特許權者(發明者) 河合三郎)

此の發明は特許第 118046 號(本誌第 23 卷第 2 號の本欄参照)の追加發明であつて、地下構築物の繫梁(4)

に發振裝置(5)を附し、外周を矢板(2)を以て圍繞し、矢板を少し打込んだ後、構築物の下方を掘鑿し、併せて發振裝置を振動させて振動を繫梁から構築物の壁体に傳へて壁体を振動させて構築物を沈下させ、再び矢板を打込み、矢板と壁体の間にはローラー(3)を逐次挿入して行く方法で、矢板の打込構築物の沈下の容易を期したものである(図-10)。

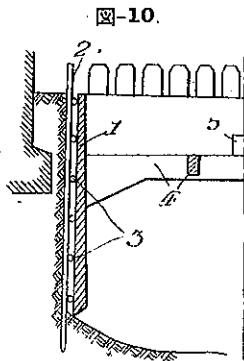


図-10.

(附) 登録實用新案

- 岸壁 (第 235805 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 16057 號) 尾玉塚一
- 金網蛇籠 (第 236077 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 14872 號) 山田文吉
- 鉄線籠護岸裝置 (第 236080 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 14260 號) 山田文吉
- 不凍栓 (第 236182 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 17197 號) 富田廣吉
- 石垣用ブロック (第 236619 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 16801 號) 河合茂一
- 石垣用ブロック (第 236620 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 16860 號) 河合茂一
- 水門の水扉移動裝置 (第 236788 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 17313 號) 林 正機
- 乳劑又は瀝青質溶液撒布機 (第 236752 號 實用新案權者 公啓 12 年 第 215 號) 高野政造
- 多口消火栓 (第 236761 號 實用新案權者 公啓 12 年 第 372 號) 水道工業株式会社
- 耐震接手 (第 236823 號 實用新案權者 公啓 12 年 第 277 號) 株式会社堀田川精製研究所
- 路面搗固用撞槌機 (第 236751 號 實用新案權者 公啓 12 年 第 216 號) 合資会社中山商店
- 水道用活栓接手 (第 236875 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 16040 號) 龜山秀子
- コンクリート製建築材の鉄筋 (第 236989 號 實用新案權者 公啓 11 年 第 17215 號) 鈴木滋太郎外一名

(吉藤幸湖)